

「一人一個のシャーレ (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

3年生を学校園(畑)に連れて行く前は、せいぜいダンゴムシとコオロギぐらいしか収穫はないと思っていた。しかし、あとから聞いてみると、実に20種類もの生き物を採集していた。



これはテントウムシ(たぶんナミテントウ)のサナギ。この時期のサナギなので、もう羽化はしないかも知れない。しかしこのシャーレの主は、テントウムシのサナギを初めて見たと言って、かなり興奮していた。



ダンゴムシは落ち葉を好んで食べる。特にサクラの落ち葉はよく食べる。そのあたりの落ち葉のうち何%かは、ダンゴムシが分解しているにちがいない。子どもたちも、ダンゴムシのエサが落ち葉と知っているのので、ほとんどの子どもは、シャーレの中に落ち葉を入れて観察していた。



虫は「囚われの身」であろうと、エサがあれば喜んで食べる。シャーレの中でもさっそく落ち葉を食べる様子が観察できた。



蓋つきシャーレの良いところは、ケースの下側からも観察ができる点である。ダンゴムシが歩く様子や、脚の数を数えることも可能である。



ある子どもが「先生ー、ダンゴムシが脱皮してる!」と言うので、見ると、シャーレの中でまさに脱皮中だった。密を避けるために、私がケースを持って、全員に見せて回った。ダンゴムシの脱皮は珍しい現象ではないが、普段なかなか目にできない。子どもたちは「王虫(おうむ)の抜け殻みたい」と喜んでいて。